

日本音楽集団第107回定期演奏会

～尺八、箏二重奏特集 その2～

バリオ・ホール

1989年2月2日(木)

主催 日本音楽集団・現代邦楽協議会

プログラム

一、 六連星 (むつらぼし)

長沢 勝俊 作曲

[尺 八] 藤崎 重康 [箏] 花房はるえ

六連星とは昴(すばる)星座のことです。初冬に入って日没後の東の中空に光放っているのが昴星座で、その六個をつないだ形が玉かざりに見えるところからその名前がついたと言われていました。私の好きな唄の一つに次のような盆踊り唄があります。「月は東に昴は西に、いとし殿御は真中に」———素朴に唄われた恋の唄ですが、人工衛星がとびかう時代になっても月や星は私たちに夢とロマンを与えてくれます。

星に想いをはせた往時の人々をしのびながら、尺八と箏に託した私の「すばるのうた」です。1978年、亀山香能委嘱作品。 (作曲者)

二、 千絵の曲

三木 稔 作曲

[尺 八] 水川 寿也 [二十絃箏] 佐藤由香里

<千絵の曲>は、1977年から78年にかけて毎週放映されたNHKの連続テレビドラマ<鳴門秘帖>のテーマ曲の一つとして作曲しました。このテレビドラマでは、主要登場人物に各種の邦楽器を当てましたが、将軍お庭番甲賀組宗家の娘で薄幸のお千絵は箏が担当しました。

<千絵の曲>は箏のソロで演奏もできます。但し、千絵の恋人であり無類の剣士でもある法月(のりづき)弦之丞は尺八が担当したので、その二重奏として演奏されることが通例となっています。

劇番の時も、舞台での初演も野坂恵子が演奏し、二十絃箏が常用されたので、今回は二十絃箏用バージョンを使用します。カデンツァの部分は彼女の着想によっています。

(作曲者)

三、 しろとみ (改訂初演)

川崎絵都夫 作曲

[WHITEOUT (ホワイトアウト)]

[尺 八] 竹井 誠 [二十絃箏] 熊沢栄利子

地表面がすべて雪に覆われ、上空にもまた一面に一樣な雲が広がっている時、雪面から反射される光と、雲から反射される光とが同じ強さになると、空間に白光が満ちて、ものみなすべて影を失ってしまうのです。 (倉嶋厚「四季のたより」より)

作曲者プロフィール………1959年東京生まれ。魚座。A型。邦楽曲、室内楽、歌曲などの他、“坂本龍一+東響”などでオーケストラの編曲も手がける。日本作曲家協議会会員。

四、 春のいぶき (初演)

宮田耕八郎 作曲

[尺 八] 宮田耕八郎 [箏] 木村 玲子

1989年1月5日作曲。

燃え上がる命の炎をイメージして作りました。箏の激しく、また流れるような演奏に乗り、尺八が軽やかにセレナーデを唄い上げます。(作曲者)

～ 休 憩 ～

五、 竹籟協奏 (ちくらいきょうそう)

諸井 誠作曲

[尺 八] 坂田 誠山 [十七絃] 宮越 圭子

1965年に酒井竹道(現竹保)のために尺八独奏曲「竹籟五章」が作曲され、それを沢井忠夫と山本邦山コンビのために作曲者の諸井誠自身が1975年に編曲し直したのが、この「十七絃と尺八のための竹籟協奏」である。

「竹籟五章」では、尺八のパートが伝統的な型を踏まえつつも、思いきり現代的に、新しい技巧も加えて、すさまじい迫力をもっているのに対して、この「竹籟協奏」も、編曲者自身によると、十七絃は尺八と「対等以上に」活躍する形になっており、たいへん技巧的な難曲である。十七絃は箏に比べて体力も必要な鳴りにくい楽器だが、低音のうねるような深いひびと迫力で聞く人々を圧倒する。諸井誠がこの編曲に当たって、十三絃の普通の箏ではなく、この十七絃を選んだ気持ちもわかるように思う。

六、 酒

牧野由多可 作曲

[尺 八] 素川 欣也 [二十絃箏] 内藤 洋子

ゆれ動く感情のおもむくまま、陶然と——この曲の冒頭に記されていることばである。

酒 それは人の世の夢

その芳醇な色と香は、よろこびも、哀しみも、すべてをつつみ込んで、ただ、きらびやかに舞ひ狂ふ花びら

その花びらは、やがて、光と風の中に詠嘆の響きをもって散ってゆく

酒 その一滴の露は、真珠のようにきらめき、水銀の鏡の中にうつる女のような陶酔をもってせまる、幻覚の神秘、麻酔の一ときか

透明な酒精のしづくは靈魂の粘液

歓喜の涙でもある

玲瀧たる 静かな そして艶やかな
酒

曲の構成は、極めて自由である。奏者の感興のおもむくまま溢れ出す音に身をまかせたい。

それらは存分に自在で、つややかな、ふくらみのある、うちふるえるような情感でありたい。
(石川憲弘第一回リサイタルプログラムより、作曲者)

七、 双魚譜

吉松 隆 作曲

[尺 八] 三橋 貴風 [二十絃箏] 吉村 七重

尺八と二十絃箏のための四つの古典的寓話抄。「双魚」は、魚座の正称「双魚宮」から、尺八と二十絃箏が並び対峙する様を二匹の魚に見たてての命名。

曲は、序の魚、破の魚、緩の魚、急の魚、四つの部分よりなる。

邦楽に関しては、雨月譜（1980）以来意識的に避けて来たのだが、三橋貴風、吉村七重両氏の熱意と、作曲者の優柔不断な性格とによって、今回のみ巻き込まれる事になった。

1986年春より初夏にかけて作曲、鳥のシリーズ完結後の第一作だが、魚のシリーズになるかどうかはさだかではない。作品26。
(初演のプログラムより、作曲者)

団員募集中

日本音楽集団では、ただ今、団員の募集を行っています。ご希望の方には当演奏会場受付で、募集要項をお渡しいたします。又、詳細については、事務局へお問い合わせ下さい。

[募集締切] 3月10日(金)

[オーディション日時] 3月20日(月)

日本音楽集団
〒151東京都渋谷区笹塚3-17-1-302
TEL 03(378)4741



アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-21-25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-397-2292